



平成27年証券アナリスト第1次試験（春試験）

解答速報！

2015/5/1 現在

【財務分析】

第1問（34点）

問1 C 問2 D 問3 B 問4 A 問5 D 問6 C 問7 A 問8 B
問9 A 問10 C 問11 B 問12 C 問13 D 問14 A 問15 D 問16 C
問17 D

第2問（12点）

問1 D 問2 E 問3 A 問4 B 問5 C 問6 E

第3問（18点）

I

問1 B 問2 D 問3 E

II

問1 C 問2 B 問3 E

III

問1 B 問2 A 問3 E

第4問（26点）

(1)

① A ② D ③ I ④ G ⑤ C
ア B イ C ウ A

(2)

⑥ B ⑦ G
エ D オ A

(3)

⑧ I ⑨ H ⑩ F
カ E キ C ク B ケ E

(4)

⑪ J ⑫ E ⑬ A ⑭ F

(5)

コ B サ C シ D

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2015証券アナリスト1次試験（春）

「財務分析」

2015年（春）試験は、例年通り大問4問の出題で、各大問への配点も同じであった。第1問の正誤選択問題の難易度が高い一方で、分析総合問題は高得点が可能な内容であり、全体として例年通りのレベルであったと思われる。具体的な内容は、以下のとおりである。

第1問の正誤選択問題は、17問の出題であった。例年と異なり、財務会計に関する論点のみの出題であり、財務諸表分析と株式価値評価についての出題がなかった。難易度としては、個々の選択肢レベルで細かな内容のものも見られたが、全体として標準的であった。

第2問の個別計算問題は、6問の出題であった。金利免除の場合のキャッシュ・フロー見積法の計算や課税所得の計算は、従来出題されていない問題であり対応が難しかったと思われる。また、他の問題についても、頻出の計算処理が出題されていた訳ではなく、全体として難易度が高かった。

第3問の総合計算問題は、9問の出題であった。Ⅰ先物取引、Ⅱ減価償却、Ⅲ株式価値評価について3問ずつ出題された。先物取引は、委託証拠金の取扱いといった細かな論点が含まれていた。一方で、減価償却や株式価値評価は標準レベルの問題であり、確実に得点すべき内容であった。

最後の第4問の分析総合問題は、10社分の連結財務諸表を合計した財務データが与えられた点が目新しかったが、内容はオーソドックスであり、十分に満点を狙える問題であったと思われる。

以上

TAC 証券アナリスト講師室